

令和5年度 事業報告

事業所名	法人本部
展望	伊賀昴会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	① 法人事業を担う本部機能の強化 ② 事業別独立採算制度の確立 ③ 職員の福利厚生の充実 ④ ウイルス感染予防対策の徹底 ⑤ システム化の導入 ⑥ 虐待再発防止に対する取り組み ⑦ 法人本部及びグループホーム昴会一部・相談支援事業所の各事業所移転準備
重点目標	<p>1.法人事業を担う本部機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・全体の指示、チェック及び情報共有はできており、職員の育成、新規採用を取組み適正な職員配置を行っている。・管理者会議の実施により即時に問題改善に取り組んでいる。 <p>2.事業別独立採算制度の確立</p> <ul style="list-style-type: none">・毎月、予算執行状況の報告及び共有を行い、予算管理会議を実施しているので補正等、迅速な対応が行えている。・各事業所の職員間で予算、実績に対して会議をし、迅速な対応が行えている。 <p>3.職員の福利厚生の実現</p> <ul style="list-style-type: none">・職員のスキル向上の為、資格習得の支援を行っている。・年次有給休暇については、積極的に取得を促し、職員全員が有給休暇を取得している。 <p>4.ウイルス感染予防対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none">・職員の健康管理の徹底及び手洗いの促しを行いました。・各事業所及び全グループホームへ非接触型体温計を設置し、PCR抗体検査キットを常備しました。・扉のレバーや手すり等の消毒徹底及び随時、換気を促しました。 <p>5.システム化の導入</p> <ul style="list-style-type: none">・太陽作業所とプレイヤード作業所にセキュリティ機器を導入し、継続中。・オンライン会議を推奨しています。・ソフトウェアのクラウド化を取り入れています。・グループホームの2か所を出勤簿のデジタル化にしました。・パソコンの入替を行っています。 <p>6.虐待再発防止に対する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・月1回、虐待防止委員会を開催しました。・職員アンケート等により、虐待防止計画の見直しをしました。 <p>7.法人本部及びグループホーム昴会一部・相談支援事業所の各事業所移転準備</p> <ul style="list-style-type: none">・移転先予定地の候補地を選定し、購入しました。

令和5年度事業報告

事業所名	<p style="text-align: center;">太陽作業所 就労継続B型支援(軽作業・厨房)・生活介護(ひらそる)</p>	
展望	<p style="text-align: center;">伊賀昂会の理念の実現を目指す。 『利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ』</p>	
基本方針	<p>B型(軽作業) B型(厨房) 生活介護 (ひらそる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ：生活リズムの安定、就労への意欲の向上を図り、個別の支援方針を確立する。 ：食への興味、調理スキルの能力の向上、高工賃収入、やりがいを確立する。 ：利用者それぞれの目標を一緒に見つけて自分の力を発揮し、次のチャレンジが出来る環境づくりを行う。 <p>⇒作業が無い時期もあり、利用者を退屈させる時期もあった。厨房は工賃アップ、厨房メンバーのスキルアップに繋がった。法人内の連携により早退する利用者が減った。</p>
重点目標 (就労継続B型) 軽作業・厨房	1. 人数目標	<p>平均利用者数25名を目指す。(軽作業17名・厨房8名) ⇒実績人数は22.9名でした。</p>
	2. 利用者支援	<p>一人ひとりの障がい特性、作業能力、性格を理解、把握しどんな状況でも対応できる支援を行う。 内部作業だけでなく、木工作业や外部作業も継続して行い、作業の種類、工賃の向上を行う。 社会参加プログラムが何を行っているかを明確にする。利用者が飽きてしまうこともあり、余暇から学習へ。利用者が学びたいものをリサーチし、参加者を増員する。 厨房では、外部のイベントや試食会などにも参加し、食についての興味をさらに高め、調理スキルや作法の向上を目指し、やりがいをもって頂けるように支援を行う。 送迎困りごと便を設置し、利用者の悩み事を文章に残し送迎スタッフと共有し、改善に向けてのサービス向上を図る。 ⇒障がい特性や利用者間の対人関係にも配慮し作業の段取りを組んだ。厨房の料理教室などは、新作メニューには繋がらなかった。</p>
	3. 防災訓練	<p>年2回の防災訓練を実施する。新型コロナウイルス感染症対策の留意点を確認・共有し、3密を避けた訓練内容を検討する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。そのうち1回はBCPに沿った訓練を実施する。防災グッズの確認と持ち出しも行う。 調理時の火災に備えた対策を実施する。 AEDを使用した訓練を行う。 ⇒AEDを使った訓練は今年も出来なかった。新型コロナウイルス対策として、消毒、作業時のマスク着用は継続している。</p>
	4. 職員育成	<p>全体・個別研修計画に沿った研修に参加し、研修内容を終礼で発表する機会を設け、一人ひとりの支援スキルアップに繋げる。 終礼の中で定期的に学習会(発達障害や自閉スペクトラム症など)を行い、根拠を持った支援ができるようにする。定期的に事例検討会を開催し、全体で支援に取り組めるように努める。 管理者・サービス管理責任者は必要に応じて定期的に厨房に入り、現状確認を行う。 ⇒事例検討会を定期的に開催する事により利用者支援への向上を図った。サービス管理責任者が厨房に入り現状確認をする機会が少なかった。</p>

	5. 連携強化	<p>特定相談事業所や相談支援センター・医療関係・ヘルパー事業所・学校の先生・キーパーソンの方・行政機関と協力し合い、社会資源を活用する。</p> <p>法人内で話し合いを密にし、それぞれの事業所の支援を共有する。作業所からグループホームへの発信の強化。共有フォルダーと電話を駆使した連携をとる。</p> <p>⇒関係機関との情報共有は出来ていたが、パートタイマーとの連携が手薄となっていた。</p>
	6. 環境整備	<p>朝の15分間の清掃を毎日行い、すべての人が過ごしやすい環境整備を行う。利用者の終礼後、アルコールで消毒を徹底し新型コロナウイルスの感染症予防に努める。また、感染した時の有事に備え、あわせて感染対策グッズの在庫確認を定期的に行う。また、感染時には速やかにBCPを発動し、職員・利用者の安全確保、サービスの継続をおこなう。</p> <p>厨房では掃除や処理の時間の確保を行い、HACCPの徹底により食中毒など衛生面の強化、賞味期限切れの商品の棚卸の強化を行う。</p> <p>⇒検査キッド等による検査を実施。厨房はハザップを毎日実施する事により賞味期限の確認が正確に行えた。</p>
重点目標 (生活介護) ひらそる	1. 人数目標	<p>平均利用者数20名を目指す。</p> <p>⇒入退院や退所により実績人数は19.3名でした。</p>
	2. 利用者支援	<p>一人ひとりの障がい特性、作業能力、性格を理解、把握しどんな状況でも対応できる支援を行う。</p> <p>選択できるプログラム作りを行い個性を生かしていく。また、作業能力、意欲がある方については、本人の希望を確認し就労継続支援B型への移行を促していく。</p> <p>支援方法など、日々の情報共有を行い一緒に考え支援を統一化していく。送迎困りごと便を設置し、利用者の悩み事を文章に残し送迎スタッフと共有し、改善に向けてのサービス向上を図る。</p> <p>⇒送迎困り事便を設置した事で多くの意見を頂きサービスの改善に取り組めた。プログラムが偏り利用者を退屈させた。</p>
	3. 防災訓練	<p>年2回の防災訓練を実施する。新型コロナウイルス感染症対策の留意点を確認・共有し、3密を避けた訓練内容を検討する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。</p> <p>そのうち1回はBCPに沿った訓練を実施する。</p> <p>防災グッズの確認と持ち出しも行う。利用者同士のサポートも充実させる。逃げ遅れが無いように、訓練を強化する。避難経路の確保も行う。</p> <p>⇒防災訓練は回数を重ねる事に真剣味が増し、地震災害訓練は、皆机の下に隠れる事が出来た。</p>
	4. 職員育成	<p>全体・個別研修計画に沿った研修に参加し、研修内容を終礼で発表する機会を設け、一人ひとりの支援スキルアップに繋げる。</p> <p>終礼の中で定期的に学習会(発達障害や自閉スペクトラム症など)を行い、今以上に根拠を持った支援ができるようにする。朝礼、終礼時に報告、連絡、相談の時間を設け利用者一人ひとりに対しての支援の統一・強化を図る。</p> <p>⇒毎日、終礼にてその日の支援について話し合い情報共有を行った。Zoomによる研修で全職員が参加出来た。</p>
	5. 連携強化	<p>特定相談事業所や相談支援センター・医療関係・ヘルパー事業所・学校の先生・キーパーソンの方・行政機関と協力し合い、社会資源を活用する。</p> <p>法人内で話し合いを密にし、それぞれの事業所の支援を共有する。作業所からグループホームへの発信の強化。共有フォルダーと電話を駆使した連携をとる。</p> <p>⇒特定相談事業所が併設した事により、連携が密に取れた。</p>
	6. 環境整備	<p>アルコールで消毒を徹底し新型コロナウイルスの感染予防に努める。</p> <p>清掃を毎日行い、すべての人が過ごしやすい環境整備を行う。</p> <p>安全第一の為に整理整頓し、事故が起こらないように片付けを徹底していく。利用者の歩行の妨げにならないような環境作りを行う。</p> <p>⇒新型コロナウイルス感染は防げなかった。利用者が転倒しないよう障害物を取り除く事により転倒防止に努めた。</p>

令和5年度 事業報告

事業所名	プレイヤー作業所 (就労継続支援B型)
展望	伊賀昂会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
1.人数目標	平均利用者数40名を目指す。 ⇒・令和5年度の年間平均人数は34.2名という結果であった。 ・引き続き遣り甲斐や楽しさを感じて頂き活気のある作業所を目指す。 ・日々の支援を大切にして次年度の目標達成に繋げる。
2.支援目標	簡単な軽作業から高度な施設外就労まで本人の能力と希望に合った色んな作業を選べるようにする。その中で本人の目標が達成できるように就労に必要なスキルやコミュニケーションを学べる機会を提供する。能力が高まった者は、A型や一般就労へステップアップして頂けるよう支援する。皆が通いたいという事業所にするために、利用者の特性に応じた環境調整や高単価作業の営業・安定した内職獲得の営業・様々な作業を経験してもらえるよう外勤先の獲得と作業量の調整を行い、平均工賃の底上げをし、利用者には選ばれる事業所となる。 ⇒・作業が多岐に渡って来て特性にあった作業が提供出来るようになってきた。 ・施設外就労では個々のメンバーさんのスキルアップが図れている。
3.工賃目標	毎日終日作業された方で月に2,000円～90,000円の作業を提供する。 平均工賃月17,000円を目指す。 ⇒年間平均工賃は27,852円であった(報酬改定で算定方法が変わったため) 従来の算定方法で計算した場合でも、年間平均工賃が22,959円になるため目標を達成することができた。
4.防災訓練	年2回の防災訓練を実施する。感染症対策の留意点を確認・共有する。併せて消防機関等との連携協力体制の確保を図る。外勤の企業先での避難訓練に参加させて頂いたり、その場での避難訓練をさせて頂くよう企業との連携に努める。緊急時に素早く地域で指定された避難場所に避難できるよう訓練する。AEDの利用方法や防災グッズの中身の確認を行う。また、南海トラフ大震災を意識し、地震対策訓練も実施する。 事業継続計画(BCP)を活用した訓練を職員中心に行っていく。 ⇒・防災訓練(避難経路の確認、避難場所の確認も含む)を実施した。 ・防災グッズの確認を行い保存食の入替を行っている。 ・AED講習は未実施であった。
5.職員育成	年間研修計画を作成し、滞りなく行われることで職員全体・個々のスキルアップを行う。日頃からの職員同士のコミュニケーションを大切にし、チーム支援を実施していく。また、事業所内での教育を実施し知識やビジネスマナーを深め支援に活かしていく。虐待防止に対する意識を深めるための事例検討会を始めとする教育・研修を実施し、職員同士が常に注意しあう。職員が悩みやストレスを相談しやすく、楽しいと思えるような環境作りを行い、一人一人が自己実現できる職場づくりを行う。 報告連絡相談確認の徹底、情報共有の強化、チームで解決していく事を心がける。 ⇒・研修プロジェクト委員会で年間研修計画を立てて研修を実施した。 (社内・県社協研修、事業所間見学など) ・本年度の反省会を行い次年度の年間研修計画を立案済。
6.連携強化	各種関係機関との連携を密に行い、本人にとって適切なサービスを提供する。法人内の連携を密にして、法人全体がチームとして支援できる体制づくりに努める。利用者の満足度アップと地域との交流・啓発の機会を図るレクリエーションを開催する。外部とのネットワークを強化し視野を広げた協力体制をつくる。 ⇒・関係機関との連携は順調。 ・法人内での連携強化が必要。 ・地域住民との交流が不足気味。
7.環境整備	誰もがここに来たいと思えるような事業所になるように景観・掃除の徹底を行っていく。ヒヤリハットも活用し、具体的に解決を図っていく。季節に合わせたオーナメントの作成と飾り付けのプログラムを実施して季節感のある作業所を目指す。 ⇒・季節感を出した飾り付けを行う。月ごとに飾り付けをした誕生日掲示を行うなど工夫が必要。 ・第4水曜(半日開所日)の午後から環境整備など作業場に関する会議を行い実現していく。 ・メンバーさんの日々のお掃除が雑な所があるので声かけをしていく。 ・職員の事務所についても終礼後5分間掃除を行う。

令和5年度 事業計画

事業所名	グループホーム昴会
展望	伊賀昴会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	<p>グループホームごとに職員と利用者が一緒に居心地の良い環境の整備を行いながら、地域に溶け込んだ事業展開を共に行っていく。</p> <p>⇒居心地のいい環境整備はできなかった。昴会祭りも長くしていないので、地域に溶け込んだというのは今の所ない。</p> <p>地域に迷惑をかけたことがあったので、仲良くする取り組みが欲しかった。</p>
重点目標	<p>1.人数目標 … 2023年度は平均75名を必達目標とした営業活動を行う。 利用者の特性に合わせたグループホームを提案し、支援度に応じた対応ができるように整えていく。</p> <p>⇒新たな利用者さんを迎えて対応できた。特性に合わせたグループホームを提案したいが空きがなく、空いている所で対応した。</p> <p>令和5年度中に千歳・ぽぷら・けやきを閉所したことが、人数が減った。 待機者7～8名いたが、閉所したことで新規入居者獲得を逃した。</p> <p>2.利用者支援 … 利用者目線での支援を徹底し、自己決定、自己選択、ニーズの把握、本人の強みを生かし、個々に合った支援を行う。それぞれの自立に向けた支援を行い、朝礼・終礼・全体会議・小会議などで情報共有を行い統一した支援を行う。個別支援計画の作成時は、現場の世話人さんも個別支援会議に参加してもらい、個別支援計画の内容充実を図る。 緊急電話での緊急対応、夜間見守りを行っていく。 夜間服薬管理の周回を継続して行い、眠剤の服薬忘れ・安否確認を行っていく。</p> <p>⇒小会議で情報共有を掲げているが現場世話人の退職もあり、統一した支援が難しかった。 現場世話人も虐待に敏感になって、利用者支援に振り替えられる人が増えた。 受診同行が増え担当世話人の業務が煩雑になり利用者さんに細かいケアができなくなった。</p> <p>3.防災訓練 … 年2回の防災訓練を行う。そのうちの1回は、防災リュックの中身及び使用方法の確認もあわせて行い、わからないことを話し合う機会とする。感染症BCPの作成を行う。</p> <p>⇒アパート型のグループホームは同じアパートの住民と一緒に防災訓練が必要。 マンネリ化して緊張感がない。DVDを借りて実際の火災を視覚的に訴えたり、外出先での発災をシミュレーションし防災意識をもてるようにしたい。 火事だけでなく地震や水害、感染症にも対応したい。</p> <p>4.職員育成 … 年間研修計画に基づいて、研修への参加を積極的に行う。 虐待研修を通じて虐待が起らない体制を作っていく。 現場世話人に研修への参加を促していくと同時に常に相談しやすい職場環境づくりを行う。</p> <p>⇒研修がどれだけ活かされているか小会議でフィードバックしていく必要がある。 資料を活用し、研修内容は思っている以上に分かりやすくする必要はある。</p> <p>5.連携強化 … 法人内の事業所間連携を図る。特定相談支援事業所を中心に、地域包括支援センター・ヘルパー事業所・病院・学校の先生・キーパーソンの方・市役所・地域・地域包括支援センター(基幹)・関係機関等と協力し合い、社会資源を活用したチームアプローチを行う。</p> <p>⇒外部の機関とよく連携できた。以前よりも早い段階で医療に相談して連携することができた。法人内の連携をもっと強化したい。</p>

6.環境整備 …… 日頃から全職員が環境整備を心がけて、ヒヤリハットなどで気づいた点を提出してもらい改善していく。年間計画に基づき事業所周りを実施していく。その他、地域の出合い等の環境整備にも職員・利用者共に積極的に参加する。

⇒コロナ禍は出合いに参加できなかったが利用者さんや現場世話人と一緒にゴミ拾いなどを行ったが、地域に溶け込んでではできなかった。

ホームによっては庭の樹木が多く次年度は早めに取り組みたい。

7.グループホームごとの目標

○ひだまり …… 入浴、洗濯、居室の掃除、買い物支援を支援度に応じて行う。
夜間支援での見守りを行っていく。

⇒支援度に応じて行いましたが、入浴拒否する利用者もあり、今後も促し支援を行いたい。

○たんぽぽ …… 入浴、洗濯、居室の掃除支援を支援度に応じて行う。
個々に応じた生活しやすい環境を整え支援を行っていく。

⇒日々居室の温度管理・掃除・様子確認などは概ねできていた。

入浴は促しても入られない利用者さんもいて清潔保持が課題。

○ふるさと荘 …… 女性専用のグループホームとして安心して暮らせる環境を提供する。
生活習慣・生活リズムを整え、健康の維持を図る。

またルールを守り、社会資源を活用しながら、集団生活・社会生活を送っていく。利用者の特性に応じた強みを引き出し、主体性を持ってもらえるよう支援を行っていく。

⇒利用者さんの入れ替わりがあり集団生活の難しさがあった。

○ほほえみ、たいよう2 …… 生活習慣・生活リズムを整え、健康の維持を図る。

またルールを守り、社会資源を活用しながら、集団生活・社会生活を送っていく。利用者の特性に応じた強みを引き出し、主体性を持ってもらえるよう支援を行っていく。

⇒ほほえみ：二人の方が一般就労。自立を目標にしている方達の手本となれるGHを目指したい。

⇒たいよう2：生活リズムの整えは完全にできていない。

○たいよう …… 生活習慣・生活リズムを整え、健康の維持を図る。

またルールを守り、社会資源を活用しながら集団生活・社会生活を送っていく。利用者の特性に応じた強みを引き出し、主体性を持ってもらえるよう支援を行っていく。夜間支援での見守りを行っていく。

⇒生活リズム・習慣を整えることができた。

○なごみ …… 集団生活、社会生活の中で、個々の強みを引き出し、その人らしい自立した生活が実現出来るよう支援していく。

⇒自立度は高いが、健康管理の意識が薄いのが課題。

○丸之内 …… 利用者の特性に応じた強みを引き出し、主体性を持ってもらえるよう支援をしていく。

⇒主体性を持って行動できたが自身が何に困っているのか気づきにくくなった。

重点目標

重点目標

○かがやき・・・利用者様全員が毎日日中活動に参加して頂けるような支援をする。
⇒入退所が多く、目標達成はむずかしかった。

○すまいる・・・利用者様の特性に応じた環境を整え、健康維持を目的とした支援をしていく。
⇒目標をほぼ達成に近づくなど特性に応じた環境を整えられた。

○桜ヶ丘荘・・・利用者様の生活習慣・リズムを整え、集団生活を身につけれるよう支援していく。
⇒生活習慣は整っていた。集団生活でのトラブルは都度対応した。

○すてっぷ・・・地域との関わりを考え、自律した生活が出来るよう支援していく。
⇒出会いなど地域との交流は持っていた。8月からは入居者がいなかった。

○久米・・・生活の基盤である収入を得るため、仕事(作業所)に通える環境を整え支援していく。
⇒遅刻があるものの毎日通所することができた。

○千歳・・・社会との繋がりを保ちつつ、自立した生活が出来るように支援していく。
⇒地域に溶け込むために掃除など活動できた。8月末日に閉所した。

○ブルー、スカイ・・・アパートでのルールを守り、アパートでの生活(二人暮らし)を通じて、自立に向けた支援をしていく。
⇒アパートの為近隣とのトラブルなどない様に穏やかに暮らすことができた。

○ぽぷら、けやき・・・女性専用のグループホームとして安心して暮らせる環境を提供する。
アパート及びグループホームのルールを守り、自立に向けた生活を支援していく。
⇒令和5年3月末日に閉所した。

○サテライト型住居わかば・・・自立度をさらに高め、一人暮らしが出来る力をつけてもらう。
⇒掃除の仕方等知らないことが多かったので、一緒にできるよう支援が必要だった。

令和5年度 事業報告

事業所名	相談支援事業所すばる
展望	伊賀帛会の理念の実現を目指す 【利用者の幸せ・職員の幸せ・地域の幸せ】
基本方針	障がいのある方が福祉サービス等を利用して、 地域で“自分らしく”暮らせるよう支援する。
重点目標	<p>1. 人数目標 … 令和5年度中に120名(実績)の契約を行う。 ⇒ <u>120名の方と契約させていただきました。目標は達成出来ました。</u></p> <p>2. 利用者支援 … 利用者さんの希望するニーズを中心に考える。 地域生活を過ごす上で利用者さんやご家族が何に困っているのかを 理解し福祉サービスに繋げる。 相談しやすい環境・関係を築く。 ⇒ <u>ご家族との連絡を密にすることを心がけました</u> ⇒ <u>利用者さんの気持ちに寄り添い、モニタリングすることを心がけました。</u></p> <p>3. 職員育成 … 伊賀帛会の研修計画に沿った研修、及び外部の研修にも積極的に 参加し、相談スキルを上げる。 福祉だけでなく介護分野や教育分野の支援やサービスを知る。 また、3障害の他難病や加齢による疾病等も知り、支援や サービスに活かす。 事例検討会に参加し、他職種と一緒に支援を考え、連携していく。 ⇒ <u>研修プロジェクトに参加し、様々な研修(案)を提案しました。</u> ⇒ <u>現任研修を受講し、利用者の意思決定の大切さを学びました。</u></p> <p>4. 連携強化 … 伊賀帛会の全事業所、他法人の事業所、市町障がい福祉課・ 障がい者相談支援センター、地域生活定着支援センター、 医療機関、ご家族、学校、地域の方等、あらゆる関係機関と 密に連絡を取り、信頼関係を築く。 ⇒ <u>相談部会やくらし部会に参加しました。</u> ⇒ <u>医療機関との連携は、退院前のカンファレンスに積極的に参加しました。</u></p> <p>5. 環境整備 … 公用車内の清掃、洗車を行う。 個人情報の管理を徹底する。 感染症BCPを作成する。 ⇒ <u>定期的に洗車はできませんでした。</u> ⇒ <u>個人情報の管理は徹底いたしました。</u></p>